

蛆の効用

寺田寅彦

青空文庫

虫の中でも人間に評判のよくないものの随ずい一いちは蛆うじである。

「蛆虫めら」というのは最高度の軽侮けいぶを意味するエピセツトである。これはかれらが腐肉ふにくや糞堆ふんたいをその定住らくどの樂土らくどとしてゐるからであろう。形態けいたい的には蜂はちの子やまた蚕かいことも、それほどひどくちがつて特別せんけんに先驗せんけん的に憎むにくべく、いやしむべき素質そしつを具備ぐびしているわけではないのである。それどころか、かれらが人間から軽侮けいぶされる生活そのものが、実は人間にとって意外な祝しゆく福ふくをもたらす所以ゆえんになるのである。

鳥ねずみや鼠ねこや猫ねこの死骸しがいが、道えんばたや縁したの下したにころがつてゐると、またたく間に蛆うじが繁はん殖しよくして腐肉ふにくの最後の一片ぺんまできれいにしや

ぶりつくして白骨と羽毛のみを残す。このような「市井の清潔係」としての蛆の功勞は古くから知られていた。

戦場で負傷したきずに手当てをする余裕がなくて打つちやらかしておく、化膿してそれに蛆が繁殖する。その蛆がきれいに膿をなめつくしてきずが癒える。そういう場合のあることは昔からも知られていたであろうが、それが欧州大戦以後、特に外科医の方で注意され問題にされ研究されて、今日では一つの新療法として、特殊な外科的結核症や真珠病などというものの治療に使う人が出てきた。こうなると今度は、それに使うための蛆を飼育繁殖させる必要が起ってくるので、その方法が研究されることになる。現に、昨一九三

四年の『ナツ—アウイツセンシヤフテン』第三十一号に、その飼い育い法ほうに関する記事が掲け載さいされていたくらいである。

蛆うじがきたないのではなくて、人間や自然の作ったきたないものを浄じょう化かするために蛆うじがその全力をつくすのである。尊そん重ちゆうはしても軽侮けいぶすべきなんらの理由もない道理である。

蛆うじが成虫になつて蠅はえと改名すると、急にたちが悪くなるように見える。昔は「五月蠅」と書いて「うるさい」と読み、昼寝ひるねの顔かほをさせるいたずらもの、ないしは臭くさいものへの道みちしるべと考かんえられていた。張はつたばかりの天てん井じゆうにふんの砂すなご子を散ちらしたり、馬うまの眼がん瞼けんをなめただらして盲もう目もくにする厄やっ介かいものとも見みられていた。近代になつて、これが各種の伝染でんせん病び菌きんの運搬うんぱん者しや、

播布者として、その悪名を宣伝されるようになり、その結果がいわゆる「蠅取りデー」の出現を見るにいたったわけである。著名の学者の筆になる「蠅を憎むの辞」が現代的科学的修辭に飾られて、しばしばジャーナリズムをにぎわした。

しかし蠅を取りつくすことはほとんど不可能に近いばかりでなく、これを絶滅すると同時に、蛆もこの世界から姿を消す、するとそこらの物陰にいろいろの蛋白質が腐敗して、いろいろのばいきんを繁殖させ、そのばいきんはめぐりめぐって、やはりどこかで人間に仇をするかもしれない。

自然界の平衡状態は試験管内の科学的平衡のようないかなるものではない。ただ一種の小動物だけでも、その影

響うの及およぶところははかり知られぬ無む辺へんの幅ふく員いんをもっているであらう。その害がいの一端いったんのみを見てただちにそのものの無用を論ろんずるのは、あまりにあさはかな量りょう見けんであるかもしれない。

蠅はえがばいきんをまきちらす、そうしてわれわれは知らずに、年中少すしずつそれらのばいきんを吸すい込こみのみ込こんでいるために、自然ぜんにそれらに対する抵てい抗こう力りきをわれわれの体中たいちゆうに養よう成せいしているのかもしれない。そのおかげで、何かの機会きかいに蠅ばい以外いかの媒ばい介かいによって、多量たうりやうのばいきんを取り込こんだときでも、それにたえられるだけの資格しかくがそなわっているのかもしれない。換かん言げんすれば、蠅せいはわれわれの五体ごたいをワクチン製せい造ぞう所じよとして奉ほう職しよくする技師ぎし技手ぎしゆの亜類あるいであるかもしれないのである。

これはもちろん空想である。しかしもし蠅を絶滅するといふのなら、その前に自分のこの空想の誤謬を実証的に確かめた上にしてもらいたいと思うのである。

あえて蠅に限らず動植物に限らず、人間の社会に存するあらゆる思想風俗習慣についても、やはり同じようなことがいわれはしないか。

たとえば野獣も盗賊もない国で、安心して野天や明け放し
の家で寝ると、風邪を引いて腹をこわすかもしれない。○を押さ
えると△があばれだす。天然の設計による平衡を乱す前
は、よほどよく考えてかからないと危険なものである。

(一九三五年二月「自由画稿」より)

青空文庫情報

底本：「科学と科学者のほなし 寺田寅彦エッセイ集」岩波少年
文庫、岩波書店

2000（平成12）年6月16日第1刷発行

2000（平成12）年6月20日第2刷発行

底本の親本：「寺田寅彦全集」岩波書店

1996（平成8）年～1999（平成11）年

初出：「自由画稿」

1935（昭和10）年2月

入力：しだひろし

校正・・noriko saito

2011年1月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

蛆の効用

寺田寅彦

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>